



財団法人 まちづくり市民財団

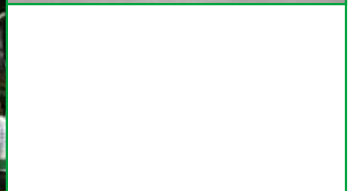
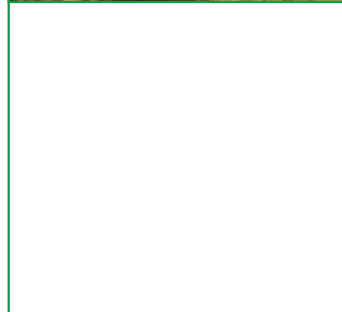
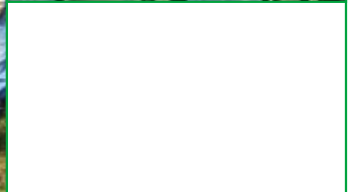
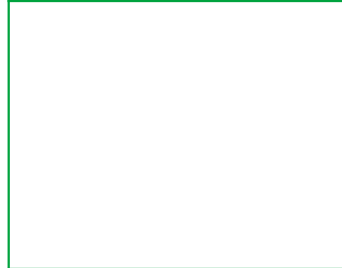
まち towns!

<http://home.interlink.or.jp/~machizkr/>

Vol. 18

- 02 財団趣意書
- 02 財団法人まちづくり市民財団寄附行為（抜粋）
- 03 財団法人まちづくり市民財団とは？
- 03 理事長挨拶
- 04 平成20年度「まちづくり人」応援助成金
選考委員のコメント
- 05 平成20年度「まちづくり人」応援助成金
交付地・助成金一覧
- 06 平成20年度「まちづくり人」応援助成金
対象事業紹介（中間報告）
- 13 NHK ラジオ取材報告
- 13 平成17～19年度助成金事業一覧
- 15 共同研究事業一覧
- 15 共同研究事業紹介
- 18 研究交流事業「システム思考セミナー」報告
- 18 ファシリテーター事業報告
- 19 平成21年度「まちづくり人」応援助成金募集要項
- 20 「まちづくり応援人募集」ご入会・ご寄付のお願い

2008年度事業報告



設立趣意書

東西の経済的、社会的融合とグローバルな活動が重視される21世紀社会の形成に向けて、地球的規模で市民・市民団体自らが考え、自ら実践する社会基盤を形成することが急務になっていきます。このことはまさに生活者・消費者を主人公とする社会システムを形成するものであります。

このような時代にあつては、行政でも特定の利益代表でもない市民が自らの手で地域の将来ビジョンを築き、行政に民間の経営マインドを注入し、市民の主導によって、先見性と夢のある計画作りを行うことが求められています。また、行政の縦割りを越えて利用者の立場にたった施策を提案し、さらに各自がその実現に向かって努力するというこの意義は極めて大きいものと思われまふ。地域社会の活力を維持する為には豊かな想像力と企業家精神、そして既存の価値観にとらわれない心は欠かせません。

以上のような考えから青年経済人として私たちは広く地域社会の将来を見通し、社会に貢献するための仕組みとして、財団法人“まちづくり市民財団”を設立いたします。

財団法人まちづくり市民財団寄附行為（抜粋）

（目的）

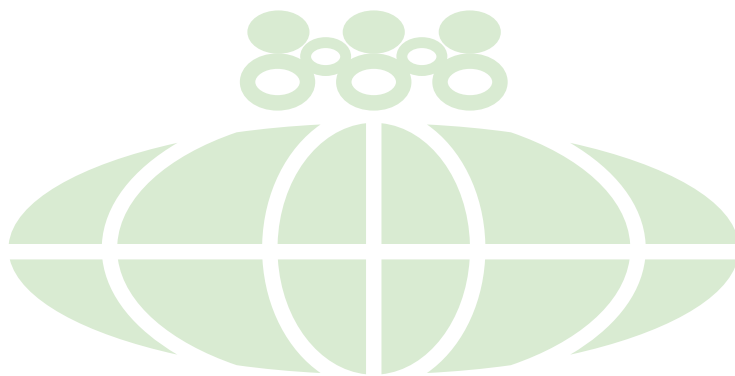
第3条 財団は、市民が主体的に行う地域振興、地域活性化をまちづくりとしてとらえ、まちづくりに関する研究・提案を行い、また、まちづくりの為の市民の諸活動への助成を行う等により、地域の発展に寄与することを目的とする。

（事業）

第4条 財団は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- （1） まちづくりに関する総合的・学術的な調査研究
- （2） まちづくりに関する情報及び人材リストの収集活動
- （3） まちづくりに関する情報提供活動
- （4） まちづくりに関する研究者交流活動
- （5） まちづくりに関する研究及び事業に対する助成
- （6） その他財団の目的達成に必要な事業

財団法人 まちづくり市民財団 とは？



まちづくり市民財団は、
パートナーシップによるまちづくりを基本理念に
「市民がまちづくりを行いやすい環境づくり」と、
「それに取り組む人たちの応援」をする財団で、
日本青年会議所が、より社会への貢献を目指し
創立40周年を期して設立したものです。

地域の小さな循環を紡ぐ 〜これからのまちづくり市民財団の役割〜



財団法人
まちづくり市民財団
理事長 こめたに ひろかず
米谷 啓和

これまで18年間、まちづくり市民財団は助成事業を中心に広くまちづくり全般にわたって活動してきました。そして阪神淡路大震災やそれを受けたNPO法の成立も手伝って、NPOや市民団体が自立して活動できる日本社会の形成に向かう一助をなしてきました。

それは同時に、行政や企業をはじめ多くの助成団体の誕生をうながし、ひいては先駆者としての当財団の助成のあり方自体を見つめ直すことにもつながっています。

また超低金利時代が続く中、公益法人制度の改革も進められ、財団の限られた財源をどう効果的に生かしていくかを見定める転機も迎えています。

〈未来世代へと手渡していける持続可能な地域をどう創っていくか〉
：わたしはこのことがいまのわたしたち責任世代の最大の課題と考えています。

そのためには、地球の大气・水・エネルギー・堆積と風化といった

大きな循環を基盤として、自治・環境・食・交通・文化などふだんの暮らしの地域の小さな循環がスムーズに回っていることが必要です。

しかし現実には、18世紀の産業革命を端緒に、第二次世界大戦後の戦後統治や高度経済成長をつうじて、地域や家族共同体の変容、化石燃料の濫費、物流のグローバル化、車優先のインフラづくり、伝統文化の喪失が急速にすすんできました。

人と人とのつながり、人と地域とのつながり、人と自然とのつながり、歴史や伝統とのつながり、未来とのつながり…ほころびつつあるこうした身の回りの小さな循環をひとつひとつ紡ぎ直していくことこそが、わたしたちが真っ先に取り組んでいくべき課題です。

具体的には、

- ・家族をつなぐ
- ・地域の共同体をつなぐ
- ・自然の循環をつなぐ

・食の循環をつなぐ 地産地消
・歴史と自分をつなぐ
・地域の伝統文化をつなぐ
・再生可能なエネルギーで暮らす
・化石燃料を使わずに移動する
といった活動のテーマが浮かび上がります。

地域の小さな循環を紡ぐ…このことを新たに財団のビジョンに掲げ、実績のある助成金事業をひとつの柱としつつ、新たな政策研究・研究交流事業に取り組むことで、地域に学び、地域を支え、そして地域を変えていく「小さな環」をもとに紡いでいきたいと願っています。

2008年度「まちづくり人」応援助成金のご報告

2008年度「まちづくり人」応援助成金には、全国各地より228件もの応募を頂きまして、誠にありがとうございました。

申請書に記載されている内容は、いずれの申請書にも市民が主導的になって、積極的に地域の問題点や改善点を革新しようと御活躍されている「まちづくり人」の皆様の熱意が伝わる内容であり、申請書に記載されている内容には、まちづくりの活動や運動が市民に根付き民主導型で積極的に展開されている事が実感できる内容が多く、「まちづくり人」応援助成金事業の関係者としては大変に心強さを感じさせられました。

本年度は「まちづくり人」応援助成金に応募頂きました228件の中より、「まちづくり人」として14件を認定させて頂き助成を実行致しました。助成先選定にあたりましては、申請書類や参考資料、ホームページ等で内容を確認させて頂いた後に、まちづくり市民財団の担当者より、電話にて申請者の方へ詳細な内容までをヒヤリング、申請内容を正確に把握した後に審査委員の先生方による選考会を開催させて頂きました。

審査会では、社会問題となっ

ているような全国的なまちづくりに関わる課題から、地域の特色や風土に関わる課題までを、様々な視点での議論を重ねた後に14件の申請が選出されました。

審査会において選出された14件に対しては、まちづくり市民財団の担当者が現地に赴き「まちづくり人」の皆様と直接お話しして、申請内容や事業、運動の詳細と共に「まちづくり人」応援助成金の申請に至った現状や、抱えている問題意識等を共有する目的で、お話を伺った後に「まちづくり人」応援助成金の申請者として認定させて頂きました。

228件の申請内容は、優劣が大変に付け難い申請である事は例年と同様ですが、地域の抱える問題に対するの緊急性や必要性、今後の事業や運動の継続性や発展性を中心として、審査の過程で議論がなされ助成先として認定されていますので、14件の中間報告書や認定者・団体のホームページ等で活動をご覧頂ければ、今後の皆様の活動の一助にもなるかと考えられます。

「まちづくり人」助成事業選考委員
担当理事 美和 健一郎

「まちづくり人」応援助成金選考委員のコメント



「まちづくり人」応援助成事業選考委員
まちづくり市民財団理事
法政大学教授 岡崎 昌之

フランス南西部、ピレネー山脈にも近いアキテーヌ州と、イギリス北部、スコットランドとの境に位置するカンブリア地域を旅してきました。

日本では平成の市町村合併が進み、小規模市町村の存立が厳しい状況になっている。ただその中で、厳しくとも自立の道を模索して、魅力あるまちづくりを展開しようとする多くの町が存在していることも事実だ。ほぼ同様の経済規模、所得を有するヨーロッパではどのようなまちづくりに取り組んでいるのか。その実態とそれを担う人々や仕組みはどうか、今回の目的であった。

ヨーロッパ諸国は概ね基礎自治体の規模は小さい。フランスで訪れた町々は300〜700人。しかし課税権を持ち、議員を公選しその互選で首長が選ばれているから立派な地方自治体といえる。我々に終始付き合ってくれたモントウ村（人口600人）の女性村長は、リタイアの時よりでバリから移住してきたキャリアウーマン。村民から懇願され村長になって2年目という。彼女の自慢は村内の12の住民組織。組織の代表や議員とは夜を徹してまちの

課題を議論することも多いという。

一方、イギリス、カンブリア地域はピーターラビットの里である湖水地方を含む観光地だが、製造業、農業主体のためイギリスでは条件不利地域にあたる。サッチャー政権時、地方自治体は規模を拡大し、細かな地域課題に個別に対応することは難しくなっている。

そこで公と民を繋ぎ新しいまちづくりに取り組んでいるのがNPOや半官半民のまちづくり組織である。それぞれが立派なオフィスと財源、そして最も重要な人材を擁している。各組織の専門家が農家のビジネス支援をし、広域観光のルート化などに取り組んでいる。

これら、地域における住民組織の自立（自律）化、まちづくりにおけるパートナーシップ促進機能の充実化は、いずれも日本のまちづくりにとっても欠かせない課題だ。

このような状況が「平成20年度まちづくり人応援助成金」申請にも見て取れる。申請数228件は内容において多様だが、大きく分けると、①まちづくりの場の形成、②自然や環境への関わり、③市街地再生の取組み、といっ

たところである。

①においては、福祉的な視点から漁村の特性を活かし魚の干物販売の拠点作りを目指す蒲郡市の「楽笑」、子育てママの楽しいサロン作りを企画する尾道市の「空き家再生プロジェクト」等がユニークで助成対象となった。

②では、富良野市の「ナキウサギの鳴く里づくり」は専門的知識を基盤にした里と自然の共生を目指すとするもの、御影石の産地であった神戸市東灘区の「CC愛編集室」による石のバンクも都市における環境整備としてユニークな試みだ。

③では、加賀大聖寺の「家守りクラブ」は都市内の文化環境を復活活用し市街地活動の拠点作りとするもの、花巻市東和町土沢の「路地裏ネットワーク」もあまり肩肘張らず商店街の原点である「市」をちよこつと復活してみようというものだ。

これらの背景としては、活動する住民の拠点づくりや多様な住民活動の連携を模索することを通じて、住民組織の自立化を模索するものだといえないだろうか。

応援助成金交付地

応募対象

1. 新しいまちづくり活動を提唱する人たちを応援します。
2. まちの中心に元気を取り戻すまちづくり活動をする人たちを応援します。
3. 世代間交流を活発にするまちづくり活動をする人たちを応援します。
4. 高齢者が元気になるまちづくり活動をする人たちを応援します。
5. 子育てに役立つまちづくり活動をする人たちを応援します。
6. まちづくり活動をする子供や若者を応援します。



平成20年度「まちづくり人」応援助成金交付先一覧表

合計助成金額 5,664,960円

| 団体名 | 事業名称 | 助成金額 | 都道府県 | 対象項目 |
|---------------------------|---|---------|------|-------------|
| 1 特定非営利活動法人 楽笑 | 地元の特性を生かした街づくり | 500,000 | 愛知県 | 1.2.3.4.5.6 |
| 2 紫波中央駅前コミュニティー・プラザの会 | 「なんでも屋・おせっかい」を拠点にした「む近所づきあい」の復活 | 500,000 | 岩手県 | 1.2.4. |
| 3 特定非営利活動法人 西淀川子どもセンター | 「ぼびんず」(子ども相談室)と「よっしゃ」(子ども地域サポーター)ではぐくむ、子どもの『安心・自信・自由』 | 200,000 | 大阪府 | 1.2.3.4.5.6 |
| 4 ナキウサギの鳴く里づくりプロジェクト協議会 | 富良野地域における「ナキウサギを核とする自然との共生」ガイドライン作成をまちづくりに活かす | 470,000 | 北海道 | 1.2.3.6 |
| 5 特定非営利活動法人 CC 愛編集室 | 石のバンク | 500,000 | 兵庫県 | 1.3.4 |
| 6 まちの家赤坂宿 準備室 | 週末健康カフェ | 200,000 | 岐阜県 | 2 |
| 7 盲導犬関連ボランティア団体「フリーラン」 | 音と写真で楽しむ、まちのイメージマップ - (副題) あなたも行ってみませんか? | 94,960 | 神奈川県 | 1.2 |
| 8 尾道空き家再生プロジェクト | 子育てママのいきいきサロンづくり | 500,000 | 広島県 | 5 |
| 9 特定非営利活動法人グリーンスポーツ奈良 | 公園・広場に芝生(ティフトン)を皆で植えて、おもいっきり遊び運動する場をつくろう | 500,000 | 奈良県 | 2.5 |
| 10 下京こころのふれあい交流サロンふう実行委員会 | ひとりぼっちにならない、させないまちづくり ~地域のお茶の間サロンからの発信~ | 500,000 | 京都府 | 1 |
| 11 路地裏ネットワーク | 地域をつなぐホテル復活計画 | 450,000 | 岩手県 | 2.4 |
| 12 どうぶつ福祉の会 アニマルサポート・ノア | 地域の動物愛護に関する意識向上を補助する事業 | 350,000 | 茨城県 | 1.4.5 |
| 13 大聖寺 家守クラブ | 加賀大聖寺「第2回やもり市 やもりものエコなくらしかた」プロジェクト | 500,000 | 石川県 | 1.2.3.6 |
| 14 コミュニティスペース運営委員会 | 大学生による地域の活性化 地域の居場所事業 コミュニティスペース PECO | 400,000 | 大阪府 | 2.3.4.5.6 |

1 特定非営利活動法人 楽笑

地域の特性を生かした街づくり

事業実施期間

2008年6月1日～2008年10月31日

事業実施場所

愛知県蒲郡市三谷町港町通57番地12

共催、後援、協力団体

観光協会・市議会議員・蒲郡市企画部・産業環境部

動員対象者人数

上記実行委員、工事関係者、楽笑スタッフを含め20名程
(但し、オープニングイベントボランティアなど含めると30名ほど)

蒲郡市三谷町は、温泉街であり、お祭りが盛んで観光地となっています。また、昔からの漁業町であるという地域の特性があります。その中で、私どもの活動拠点であるパン工房は利用者数が増え、ニーズに対応しきれなくなってきたという課題を抱えていたことや、福祉だけでなく、地域にも働きかけ、地域全体で街作りを行い「誰もが楽しく笑いに満ちた街作り」を実現させたいと考えていました。そこで、地域の特性を生かした新拠点（干物屋）を設けることで、様々な観点から事業展開ができると考えました。

その中で、今回頂く助成金で干物屋の軒先を、地域の方や観光客の方が集まれるようデッキスペースや、焼き台を設けることで障害のある方や住民・観光客が、障害の有無関係なく触れあえる場所となります。また、パン工房と近くに干物屋を設けることで、伊勢のおかげ横町のような「八兵衛」でパンや駄菓子を買い、新拠点で干物を買う・食べながらの交流といった三谷の街を人が行き来するような「街作り」ができると考えています。実際に、現在のパン工房でも、店前で駄菓子を買いに来た子供や、パンを買いに来た主婦の方などが集まっている光景がよく見られます。

現在、進捗状況としては、実行委員会の選出を行い、どういった形で漁業や街の活性化をしていくかを話し合っています。拠点となる店舗の改修も行われていて、10月上旬に完成予定となっています。また、行政と観光協会の協力を得て、10月19日の酒屋「十兵衛」（干物屋）のオープンの際には「R東海のさわやかウォーキングとタイアップしてオープニングイベントを開催することが決まっていま

す。そこでは、助成で改修させて頂いた軒先で、住民と障害者が接客し、観光客等が干物焼き体験を行ったりして触れあいます。

元々祭りが盛んな地域であるため、楽しいことを好み、団結力もあるため、こういったイベントでつながりが一層増し、住民の街作りへの自発性を引き出すことができると考えています。また、観光スポットとして知名度があがれば、地元だけでなく、より多くの方に活動を知って頂くことができ、「街作り」を広めて行くことができると考えています。

そのためにも、今回の助成は必要不可欠なものであり、助成を頂くことができ、本当に嬉しく思います。今後も、地域の方と障害のある方が協働し、街を活性化する拠点となるよう話し合いを重ねていきたいと思ひます。



2 紫波中央駅前コミュニティー・プラザの会

「なんでも屋 おせっかい」を拠点にした 「ご近所づきあいの復活」

事業実施期間

2008年5月～2009年3月

事業実施場所

岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前1-2-2

共催、後援、協力団体

紫波町当局が私たちの試みを協働支援の対象と位置づけ、公共用地の使用を認めるなど、応援する姿勢をみせています。

動員対象者人数

動員対象者としては、私たちの活動地域に住む約400世帯、1,200人以上が考えられます。私たちの「なんでも屋」を訪れる客は毎日100人前後。オープンから10カ月間に約2万人の客が訪れました。

私たちの活動地域は新興住宅地のため、住みはじめてから10年近く経過したいまも、住民に横のつながりはほとんどなく、「隣は何をする人ぞ」というのが実状です。このため、とりわけ高齢者の間から、「このままひとり暮らしの年寄りが増えていったらどうなるのか」といった不安や、「歩いて食材や日用品を買いに行けるような店が欲しい」と訴える声が高まってきました。

そこで、住民のナマの声を聞こうと、住民有志が地域のほぼ全世帯を戸別訪問し、アンケート調査を実施したところ、3世帯に1世帯から「歩いて行ける範囲にぜひ店が欲しい」という回答が寄せられました。また、戸別訪問をしてみても驚かされたのは、多くの高齢者が親しい話し相手もなく、いかに孤独に生きているかとい

うことでした。

こうした結果を踏まえて、地域住民が自ら運営する店を立ち上げ、住民同士を結びつける拠点にしたらどうだろうということになり、町から紫波中央駅前の公共用地を借り受け、平成19年10月に約40㎡のプレハブ店舗を建設。町内商店街と周辺農家の協力を得て、「なんでも屋 おせっかい」（日曜、祭日を除き年中無休）をオープンさせました。

「なんでも屋」の主たる目的は、ひとくちで言えば、高齢者を中心とする住民の利便をはかりつつ、人と人を結びつける「接点」になることです。

このため、家に閉じこもりがちな高齢者や、ご近所づきあいをためらっている若い主婦に対し、散歩がてら「なんでも屋」に出かけてくるよう、チラシや口コミで呼びかけるとともに、店内にはお茶を飲めるコーナーを設けています。

しかし、狭い店舗では、このお茶飲みコーナーも十分にとれないため、当初は店舗の外側に巻き上げ式の日除けテントを取り付けてカフェテラスにしようと考えました。ところが、テントのカフェテラスには冬場は使えないという致命的な弱点があります。そこで、同じ敷地内にある紫波中央駅の駅舎の1部を喫茶コーナーとして住民に開放してほしいと町当局に申し入れたところ、幸いなことにころよ

く了承してくれました。現在、就労継続支援事業所が喫茶コーナーを運営、1杯100円程度の募金でコーヒーを提供し、町民と地域の人びとの談話室として定着しつつあります。

このため、カフェテラス用の大型テントに代えてイベント用の小型テントを、さらに新鮮な刺身や干物が食べたいという高齢者の要望にこたえて小型のオープン冷蔵ケースを購入、地域住民の「接点」としての機能を高めることにしました。

おかげでというべきか、開店10カ月を経て、「なんでも屋」には連日100人前後の客が訪れており、店内のお茶飲みコーナーや駅の喫茶コーナーでは、知らない同士が親しく語り合う場面もみられるようになりました。常連さんも着実にふえており、買い物という日常的な行為を「ご近所づきあい」につなげることで、お互いに支え合い、安心して暮らしていけるようなコミュニティづくりの拠点にしたいという私たちの目標は、一歩ずつ実現に向かっていくように思われます。



**3 特定非営利活動法人
西淀川子どもセンター**

**「ぼびんず」と「よっしゃ」ではぐくむ、
子どもの「安心・自信・自由」**

事業実施期間

2008年4月1日～2009年3月31日

事業実施場所

香養会館

共催、後援、協力団体

香養地域振興連合町会、保護司会、御幣島幼稚園、青空財団。

動員対象者人数

4月から9月まで延べ 大人349人、子ども376人

4月から9月は子ども相談室（ぼびんず）スタッフ研修と地域の大人による子どもサポーターの養成のための啓蒙活動に中心的に取り組み、同時にCAP（子どもへの暴力防止プログラム）スタッフによる、子ども対象にした活動も展開しました。主な活動は次のようなものです。

①**研修や講演会など地域セミナーを開催しました**
地域の人や、学校関係者・保護者が目の前の子どもたちが抱える問題を深く理解し、「子どものための相談室」（ぼびんず）の必要性を実感し、子どもサポーターになろうと思えるように、5回にわたって地域セミナーを実施しました。

●「子どもへの暴力防止プログラム（CAP）」の周知のための説明と演習

CAPは子どもの年齢に応じて、それぞれにプログラムがあるので、まず、小学生版、続いて就学前のものを、各2時間のワークショップ形式にて、3回実施。参加者（大人）は自分自身の子どもの時代も振り返りながら、子どもは「安心・自信・自由」の権利というキーワードとその理念を理解し、子どもの力を信じて引き出せる取り組みへの期待を共有しました。

●専門家による講演会

6月には、当センターのサイドバイザーの川端利彦氏（児童精神科医）による「一人ひとりの子ども～子どもを支援するとは」の講演を行いました。当日は、現場関係者の幅広い層の参加も含め多数の参加があり、大変好評で今後のセミナーの核として、継続実施していく予定です。

②**CAP活動**

幼稚園や小学校からの依頼で、9月末現在、子どもワーク12クラスと大人ワーク8校実施しました。各ワーク後には必ず、子どもと大人ともに、自身の体験などに基づく切実な相談や感想が寄せられています。

③**絵本の読み聞かせ**

公園で幼稚園帰りに親子で時を過ごしている親子を対象に「絵本の読み聞かせ」なども行ってきました。

④**子ども相談**

各方面に、子ども相談室を開設したことを知らせるチラシやカードを作成し、配布しました。また、相談室を開設する際（毎週水・土曜日）には、会のノボリを立てて、子ども達に会が活動中であることを知らせる取り組みを進めてきました。その中で、7月に初めての相談者（高校1年生）が、相談室を訪れてくれ、学校生活や体調のことなどの悩みをスタッフと話しました。

⑤**事務所の開設**

活動の拠点となる事務所を確保するため、大阪府が実施するコミュニティビジネス等導入プロポーザル事業に応募し、無事採択されました。9月より、区内の市営住宅の一室をお借りすることができるとなり、9月13日は地域の方々や関心を持っていただいている皆さんを招いて、事務所お披露目見学会を開催しました。



今後は、地域の人達と協力しながら、子どもが活躍する場づくりに取り組み進んでいきたいと思えます。

■2008年4月以降の活動日誌（スタッフ会議を除く）

- (参加人数はCAPは1ワーク大人20人、子ども30人とし、その他は実数)
- 4月23日(水) 絵本タイム スタッフ4人 公園で親子15組
- 5月10日(土) セミナー「CAP子どもワークショップを大人が体験」
スタッフ5人 参加者大人17人
- 5月24日(土) セミナー「CAP大人ワークショップ」 スタッフ5人
参加者大人10人
- 5月27日・28日・29日 CAP 長池幼稚園 大人3ワーク スタッフ11人 参加者大人60人
- 6月4日・5日・6日 CAP 長池幼稚園 子ども6ワーク スタッフ18人 参加者子ども180人
- 6月7日(土) セミナー「子どもを支援するとは」児童精神科医講演
スタッフ10人 参加者大人30人
- 6月16日(月) CAP 西淀川区福小学校 大人ワーク スタッフ2人
参加者大人20人
- 7月9日(水) CAP 淀川区宮原小学校 大人ワーク スタッフ3人
参加者大人20人
- 7月10日(木) CAP 西成区松の宮小学校 子どもワーク、大人ワーク
スタッフ6人 参加者子ども30人、大人20人
- 7月12日(土) セミナー「CAP就学前子どもワークショップを大人が体験」
スタッフ5人 参加者大人8人
- 7月16日(水) CAP 西淀川区佃小学校 大人ワーク スタッフ3人
参加者大人20人
- 8月8日 子どもセンター地域説明会 スタッフ4人、行政担当者2名、住民大人25人
- 9月2日 CAP 中央区中大江小学校 大人ワーク スタッフ 3人
参加者大人20人
- 9月5日 CAP 西淀川区姫里小学校 大人ワーク スタッフ3人
参加者大人20人
- 9月9日 CAP 中央区中大江小学校 子ども2ワーク スタッフ3人
参加者子ども60人
- 9月9・11日 CAP 西淀川区佃小学校 子ども3ワーク スタッフ6人
参加者子ども90人
- 9月10日 CAP 淀川区田川小学校 大人ワーク スタッフ3人、
参加者大人20人
- 9月11日 CAP 西淀川区姫里小学校 子ども2ワーク スタッフ4人
参加者子ども60人
- CAP 天王寺区天王寺小学校 大人ワーク スタッフ3人 参加者大人20人
- 9月13日 子ども相談室（常設事務所）開所記念終日見学会
スタッフ10人、参加者大人24人、子ども1人
- 9月18日 CAP 天王寺区天王寺小学校 子ども2ワーク スタッフ3人
参加者子ども60人
- 9月22日 CAP 西淀川区歌島小学校 子ども2ワーク スタッフ3人
参加者子ども60人

4 ナキウサギの里づくりプロジェクト協議会

富良野地域における「ナキウサギを核とする自然との共生」ガイドライン作成をまちづくりへ活かす



ナキウサギ調査地で



キリギン講演会

事業実施期間

2008年5月1日～2009年3月31日

事業実施場所

北海道富良野市一帯

共催、後援、協力団体

富良野市教育委員会、富良野生涯学習センター友の会、富良野山岳会、東京大学北海道演習林、トヨタ財団など

動員対象者人数

6月1日、6月29日、7月26日、9月13日に実施された勉強会については、常時約10人程度が参加した。9月13日の講演会（資料添付）には、地域住民を中心に約30人が参加した。

〈事業の活動内容〉

本事業の目的は、自然との適切なつき合い方について、生物多様性保全の視点から科学的に捉えつつ、地域住民主体の保全体制を構築することにある。それらは同時に、持続的可能なルールづくりと関係諸団体の意識向上の役割を持つ「まちづくり」の視点を交えた取り組みでもある。具体的には、ナキウサギの保全を皮切りに、その他の動物に対する餌付け行為の禁止やアウトドア事業のあり方、ゴミ出し方法や開発行為への監視など地域住民の協力要請などについての取り決めに加え、それらの普及啓蒙を行なうことで現状を変えていきたいと考えている。今後の事業の予定

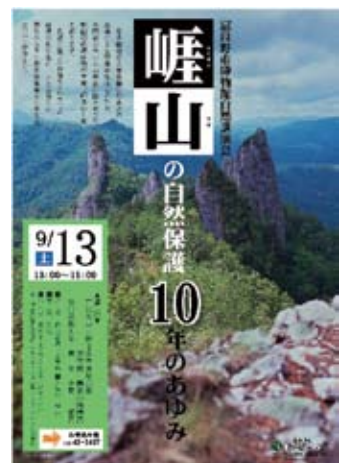
スケジュールとしては、①先行事例となるガイドラインについて分析・検証→②会員や関係地域住民の意見を取りまとめて、富良野ガイドライン原案を作成→③関係諸団体との交渉・調整→④シンポジウム開催と報告書の作成→⑤パンフ作成と配布→⑥学会発表や論文作成→⑦条例化を目指す、といったステップを踏みつつ、目標達成に向けて着実に実績を重ねていきたい。

〈現状報告〉

現時点まで数回にわたって行なってきた勉強会では、全国で定められている環境保護系のまちづくり・地域づくりに関連する様々なガイドラインについて、その取り組み方法や内容の分析・検討を重ねてきた。その中でも、当協議会で作成する『富良野ガイドライン』で定める、事業者や住民の行動について規制・制限を求める事案については、デリケートな問題であるため、特に時間をかけて慎重に検討を行なう必要があると考えられた。その参考事例として、隣接自治体である芦別市で実施され、全国的にも評価されている「キリギン山入山規制」が役立つのではないかと会員の意見を受けて、芦別市星の降る里百年記念館学芸員長の谷山隆博氏と嵯山自然保護協

議会会長の山岡桂司氏を招聘して講演会・勉強会を行なった。結果、キリギン山入山規制の取り組み方法や課題・問題点について学べたことは、当ガイドライン作成にとって大きな成果となったと考えられた。

次回11月上旬に行なう勉強会では、『富良野ガイドライン』の作成に向けた原案づくりに着手していく予定である。



キリギン講演会ポスター

5 特定非営利活動法人
CC愛編集室

石の銀行（石のバンク）

事業実施期間

2008年5月20日～2009年3月20日

事業実施場所

兵庫県六甲山南山麓部（神戸市、芦屋市、西宮市、他）

共催、後援、協力団体

協力：武庫川女子大学 三宅正弘研究室、阪神白地まちづくり支援ネットワーク

〈事業内容〉

「石の銀行」（助成金申請時は「石のバンク」としていましたが、より理解されやすいネーミングということで変更しました）

兵庫県六甲山南山麓部に多く埋まり、都市開発やマンション建設時には廃棄されている多くの御影石の有効利用を図るために、「石が出てくる方」と「石を使う方」の石のデータをマッチングする「石の銀行」の立ち上げを行う。

阪神間（神戸市、芦屋市、西宮市、他）の建築家、造園、石材、行政など対象人員約3000名に対しアンケート（一部聞き取り）調査を実施し、「石が出てくる方」「石を使う方」にとって使いやすいシステムを構築。

サイト上でシステムが利用できるようにしていきたい。と考えている。が、しかし、予算にも制約があり、「サイトでのプログラム」を

組む。などの所までは、行けそうにない。

〈活動内容及び現況報告〉

「石が出てくる方」「石を使う方」の一部の聞き取り調査を行い、「石の銀行」の大まかなシステムフローまではできており、それを元に「アンケート内容の検討」を行い「アンケート」の原稿がやっと印刷へ回せる所までできました。これから「アンケート先のピックアップ」「アンケートの郵送や手渡し」「返ってきたアンケートの分析」「システムを運営まで考えた物に仕上げる」などの工程を経て「サイトの構築」へと行く予定。

姫路城郭研究センターにある「文化財石垣保存技術協議会」の研修会にも参加し、石関連の方々へ聞き取り、「公園緑地のマネジメント」著者であり造園家の中橋文夫氏を訪ね聞き取りなど行った。

事業計画当初は「石がでてくる方」をかなり意識していましたが、聞き取り調査から「石を使う方が、使いやすいシステム」を目指しています。

行政と民間の違いや石を使う業種により、要

望が違うなど、細かく違う事もネックになりそうです。

あまり細かなディテールにこだわると、肝心のシステムが組みなくなる。「ころあい」を決めるのに、もう少し議論が必要と思われます。また、まだ決定ではありませんが、アンケートの印刷が出来上がれば、地元神戸をはじめ、芦屋、西宮の青年会議所のも協力をお願いする予定です。

よろしくお祈りします。



「文化財石垣保存技術協議会」の研修会へ参加時のスナップ。姫路城の石垣の説明を受ける。



都市計画の工事現場から出てくる多くの御影石

6 まちの家赤坂宿準備室

週末健康カフェ

事業実施期間

2008年5月4日～2009年4月予定

事業実施場所

大垣市赤坂町 赤坂東町公民館

共催、後援、協力団体

宿場の駅五七処、十六銀行赤坂支店、(有) ケアサービスアスカ、煎りたて本舗、(医) あいち診療会、大垣市介護福祉課、大垣市保健センター

動員対象者人数

「週末健康カフェ」

8月24日までの登録者102名、利用者のべ224名

まちの家赤坂宿準備室は平成19年11月に発足以来、地域住民が住み慣れたまちに住み続けるために、地域住民を巻き込みながら自分達の持てる力を発揮できるシステムの構築を目指して活動している。その基盤づくりのひとつとして、平成20年5月より看護師・理学療法士などで運営する「週末健康カフェ」を設置し、住民への我々の職能の周知と住民の健康状態やニーズの把握をする活動を開始した。

これまでの病院や在宅での実践において、現状の医療・福祉サービスでは住民の多くが望む「年をとっても住み慣れた家（まち）に暮らし続けたい」という思いに応え切れないというジレンマがあった。また、現代社会が生み出した「地域コミュニティの崩壊」や

高度医療化がもたらした「医療施設への依存」により、老いることや病むことを身近に感じられなくなってしまった現状が、その思いを遠ざけている一因と捉えた。そこで、従来型の健康課題が起きてから対処するサービスではなく、住民自身が健康課題に取り組み、世代の枠を超えて住民同士が支えあえるシステムの構築を目指し発足した。

今回は「週末健康カフェ」開始3ヶ月の実践報告と今後の課題について報告する。

活動の拠点は、大垣市赤坂町にある。ここは中山道赤坂宿の面影を残しながら、高齢化が進み医療過疎地区でもある。活動の開催場所と日時：赤坂町東町公民館・毎週日曜10～15時、対象：住民、内容：動脈硬化測定・体組成測定・健康相談・リハビリ相談・喫茶、実践者：看護師6名（うち3名は他の地域在住）・理学療法士1名・医療職以外のスタッフ3名の計10名で構成、利用者負担は100円で、スタッフは無償でサービス提供している。

8月末日まで（16回開催）の実績は、利用者数は上記で、利用者の居住地は74%が赤坂地区であった。交通手段は徒歩での利用が64.4%と最も多く、滞在時間は60～120分が56.6%、

平均78.9分（SD=21.7）。利用者の年齢構成は20～90歳代、平均67.2歳（SD=15.9）で70歳代が最も多かった。

活動開始から4ヶ月を経過し、上記の結果から、利用者は身近な健康相談窓口を求めており、集いの場となっていることが推測される。さらに、未分析であるが、複数回利用者の健康レベルの改善（生活動作の向上や、体重・内臓脂肪率の適正化など）の傾向が見られ、健康効果をもたらしていることも推測できる。何よりも利用者から「ここに来るのが楽しみ」「（測定）結果が楽しみ」「毎日でももっとお金を払っても来たい」という声が上がってきていることがニーズを反映していると考えられる。

今後の課題として、利用者の多くが高齢者層であることから、本事業が目指す世代の枠を超えて住民同士が支えあうシステムを展開するうえで、若年層の利用の促進と利用者の拡大が必要と考える。また、システムを継続して運営していく上で、現在のサービス体系では診療報酬が望めず、スタッフの報酬の獲得が大きな課題といえる。



7 盲導犬関連ボランティア団体
「フリーラン」

音と写真で楽しむ、まちのイメージマップ —あなたも行ってみませんか？

事業実施期間

2008年7月～2009年3月

事業実施場所

神奈川県横浜市

共催、後援、協力団体

現在、無し（検討中）

動員対象者人数

実働者として現在まで14名。最終的に20名以上の予定

■事業内容

本事業では、横浜を訪れたり横浜で暮らす視覚障がい者と晴眼者が日頃親しみのある横浜の各所へ一緒に取材に出かけます。そして、視覚障がい者がICレコーダで録音（リアPCM録音）した“スナッパ音声”と晴眼者がデジタルカメラで撮影した“スナッパ写真”を1つのコンテンツとして結び合わせるかたちで、横浜各所で私たちそれぞれが大切にしている視覚障がいのイメージならびにそれらイメージとつながっている“まち”の意味や意義を集め、「まちのイメージ・マップ」として発信しています。発信媒体としては独自ウェブサイト『ハマ・スケープ -http://letsfreerun.net』を設置し、上記コンテンツのほか、録音の「音源のリスト」や、「参考情報」として各種関連情報もアップロードしています。

■事業目的

上記各コンテンツを集める協力の過程で、視覚障がい者と晴眼者の相互理解が得られ、また、集めたイメージの発信の結果から、“まち”のことや、街を訪れたり町で暮らす様々な人たちのこと、およびそのいろいろな過ごしかたを、多くの人々と理解し和えることで、「まち」を舞台や話題とする交流や“まち”に出かける楽しみ、そして“まちづくり”への喜びが増すことを目的としています。

■9月までの活動内容

7月：オリエンテーションの実施。8月：ウェブサイトの制作および公開。試験的な「テスト」コンテンツ（取材地：山下公園）のアップロード。メーリングリストの設置。9月：付加的な「プラス」コンテンツ（取材地：ドイツ・ヴァイカースハイム）のアップロード。コンテンツ（取材地：伊勢佐木町）のアップロード。視覚障がい者によるウェブサイトのユーザビリティ・チェックと、それにもとづくウェブサイトの修正。2008/8/28のウェブサイト公開から2008/9/25までのウェブサイトのページアクセス総数3,331（各ページへのアクセス数合計）。

■今後の活動予定

2008年10月から2009年3月の間、1ヶ月に1

ヶ所の取材を行ない、1ヶ所につき2つのコンテンツをウェブサイトにアップロードするかたちで最終的に合計7ヶ所で14個以上（+試験的コンテンツ1個、付加的コンテンツ2個）のコンテンツを発信していく予定です。また、横浜内外に活動地域を広げ、より多くの参加者による活動の拡大や他グループによる類似の取り組みという将来的な可能性に向けた参考情報として、今回の事業における取材方法やコンテンツとウェブサイトの制作方法等の簡易マニュアルも併せて作成したいと考えています。



8 特定非営利活動法人
グリーンスポーツ奈良

公園・広場に芝生（ティフトン）を皆で植えて、 おもいきり遊び 運動する場をつくろう

事業実施期間

2008年4月1日～2009年3月31日

事業実施場所

奈良市西九条町5丁目

平城京羅城門跡公園

共催、後援、協力団体

NPO法人グリーンスポーツ鳥取

……芝生化に対するアドバイス・助言

奈良市公園ボランティア

……施肥・水やり・芝刈りの応援と芝苗の移植

ならF・A会

……施肥・水やり・芝刈りの応援と芝苗の移植

知的障害者施設

……芝苗づくり

地域ボランティア

……芝苗の移植

勝樹園

……土地整備

動員対象者人数

羅城門跡公園の芝生化について打ち合わせ

1. 公園ボランティアと行程と応援体制について

……4回 計12人

2. 勝樹園と土地整備について

……1回 2人

3. 奈良市企画課と緑地課と打ち合わせ

……2回 計10人

羅城門跡公園の芝生化事業計画において、予算として収入の部「まちづくり」応援助成金50万円と近畿ろうきんNPOアワード助成金50万円を予定していましたが、残念ながら近畿ろうきんの助成金が不採択となりました。

芝生化をより充実した内容にするため、事業計画を練り直し、公園ボランティアと、行程と応援体制の打ち合わせを行い、また勝樹園と土地整備の打ち合わせも行い、企画書を作成し奈良市市民企画事業に応募（1509,000円）し、合計200,9000円で予算を立て直しました。奈良市で企画課と緑地化とも芝生化の事前協議を経て一次審査にも合格し、二次審査を受けるにあたっての原稿作成を行い、9月28日に審査委員の前で発表し審査を受けました。（10月には採否の決定の予定となっています。）

- ・9月11日京都での「まちづくり人認定書」授与式に参加しました。
- ・9月17日貴財団の紹介により、NHK第一ラジオ放送の「ふるさとラジオ」の中の“ふるさと元気”コーナーに出演し、羅城門跡芝生化について、PRしました。

奈良市の助成の採択が決定するまでは、現場での作業については、行えないのが現状で、打ち合わせのみに終わっています。

奈良市に採択されたおりに、貴助成金で平成21年3月までにまず東約半分の土地整備（43万円）と水吸い上げポンプ（7万円）の購入計画で進めたく思っています。

9 特定非営利活動法人
尾道空き家再生プロジェクト

子育てママのいきいきサロンづくり

事業実施期間

2008年4月1日～2009年3月31日

事業実施場所

広島県尾道市三軒家町3-23

共催、後援、協力団体

尾道大学小野研究室・東京工業大学真野研究室（協力）

財団法人ハウジング&コミュニティ財団（助成）

動員対象者人数

延べ動員者数はおよそ150人

〈活動内容〉

ママミーティングの開催

4月から2ヶ月に1度ほどの割合で、ママ会員さんを集めてミーティングを行い、サロンのコンセプトや運営方法、内装など話し合いました。

今後はさらにミーティングを重ね、実際の運営やイベント企画などをしていく予定です。

ボランティア片付けの開催

5月中にママやパパたち、学生さんなどで空き家に残された不用品の片付けとゴミ出し作業を何度も行いました。

使えるものはリサイクルやリユースに努めなるべく廃棄物を少なく押さえます。

建築ミーティングの開催

一級建築士さんや職人さんと月に一度は打ち合わせをし、現場の進行状況に合わせて再生プランを練りました。

DIYボランティア工事の開催

7月から8月の14日間に渡って、パパや学生さんなどで本職さんを講師に解体作業や下地作りなど簡単な作業を行いました。

アートミーティングの開催

仕上げのいくつかの箇所をフレスコ画やモザイクタイルの仕上げなどを施すなどアートの要素もふんだんに盛り込むため大学の美術講師や学生さんとも打ち合わせを重ね、再生に参加してもらう予定です。

尾道建築塾での再生ワークショップの開催

9月中に尾道建築塾の第2期再生現場編で取り上げ木工コースと左官コースそれぞれ3日間ずつ、床貼りや漆喰塗りなどをワークショップ形式で一般や小学生の参加を募って開催しました。

〈現状報告〉

当初の予定では10月中に完成予定でしたが、



予想以上のシロアリ害や床下から井戸が出てくるなどのハプニングにより、工事が長引いています。

また、最初は予定していなかった建築塾やアートでの仕上げなどのアイデアや賛同者が次々と現れ、なるべく多くの人に関わってもらって再生の過程を共有することを大事にしていますので、オープンを急がずプロセス重視でいくことにしました。

11月中にはオープンできる予定です。



10 下京こころのふれあい交流サロンふう実行委員会

ひとりぼっちにならない、させないまちづくり ～地域のお茶の間サロンからの発信～

事業実施期間

2008年4月1日～2009年3月31日

事業実施場所

下京こころのふれあい交流サロンふうサロンの内及び 近隣地域

共催、後援、協力団体

下京こころのふれあいネットワーク推進委員会、開智自治連合会、開智社会福祉協議会、開智保健協議会、社会福祉法人てりてりかんぱにい、ふてんま医院、下京区社会福祉協議会、下京保健所

動員対象者人数

1. 交流サロン活動（月・火・木・金曜日）1日の利用数 10名～25名
 2. 健康相談事業 月1回実施 1回の利用数約5名
 3. 京都市市長を迎えての交流会 8/19 20名
 4. イベント事業
 - ・七夕週間 7/1～7 84名
 - ・「アロマセラピー」9/22 20名
- 「社協情報ノーマ」9月号、京都市民新聞～下京区版～4・9月号に掲載
下京区役所市民ギャラリーで9月活動紹介

1. 交流サロン活動

最初は地域住民と障害者が二つのグループに分れていたが、時が経つとお互い顔見知りになり、同じ輪の中で自然に会話を楽しむようになった。

地域住民からは「今までは仕事人間で効率優先の考え方をしていたが、サロンで障害の

ある皆と関わり、心を通わせる大切さを学んだ」との声が、障害者からは「普段接する福祉関係の人たちではなく、地域のひとと喋れて新鮮」「お年寄りから昔の事や文化の話が聞けて勉強になる」との声が聞かれる。顔見知りになった常連利用者が顔を見せないと心配し、路地で声をかけあう機会も増えてきて、地域での繋がりが深まりつつある。

また、近隣の保健所や診療所デイケアからの利用や見学が増えてきている。

2. 健康相談

4月より試験的に実施中、利用者は限定的であるが概ね好評である。

3. 京都市市長を迎えての交流会

この交流会は日頃の活動が認められ、京都市市長に視察していただきたいと、下京区長からの推薦で実現した。実施には上記4に記載の諸団体に協力していただいた。

市長を囲み、地域住民や障害当事者、サロン活動を支えるボランティアが意見交換を行った。市長からは「やさしいまちづくりに必要とされる要素が詰まった空間」という話が聞かれ、サロン利用者、従事者共に活動の意義を確認しあった。市の財政悪化に困り活

動基盤が脆弱なので、行政へのアプローチが今後も必要であろう。

4. イベント事業

・七夕週間

他区で同様の活動を実施している団体と共催。相互交流をして、活動を紹介しあった。

・イベント「アロマセラピーに触れてみよう！」

月1回のイベント第1段である。20名の地域住民、障害当事者が参加。講師から、まずアロマ全体についての講義を受け、アロマフレッシュ作りやアロママッサージを実践した。

顔見知り程度の関係だったサロン利用者が親しくなる機会となった。また、ボランティアが幼児の面倒をみたので、子連れのおかあさんにも安心して参加してもらえた。



11 路地裏ネットワーク

地域をつなぐホタル復活計画



事業実施期間

2008年7月10日～2009年2月28日

事業実施場所

岩手県花巻市東和町土沢地区

共催、後援、協力団体

協力団体：エコネットとうわ、土沢第2・第3行政区、とうわ野鳥の会

動員対象者人数

ア) 関係者会議（打合せ会）

動員対象者：協力団体及び事務局 計7名

イ) 第1回鑑川とホタルを考える会

動員対象者：鑑川流域に暮らす地域住民約60世帯

ウ) 水生生物調査

動員対象者：参加希望者（とうわ野鳥の会）

ア) 関係者会議（打合せ会）

7月29日(火) 19:30～20:30

於：土澤まちかどふれあいセンター

参加者：7名（協力団体、事務局）

内容：事業の概要について（報告）

- ・「新・長屋暮らしのすすめ」プロジェクトの実施を通して、地域住民の思いを聞き出すワークショップを実施。その中で出てきたのが、昔遊んだ鑑川の思い出、数年前までホタルがいたという話。
- ・ホタルの復活を住みよい暮らしを展開していくきっかけにしたい。

鑑川とホタルに関するフリートーク

- ・コンクリートの護岸でもホタルが生息できる方法の検討

- ・水路としての活用（排水・利水）とそこに住む生物の生態系をどう考えるか
- ・旧東和町で調査したホタルの生息状況
- ・生態系を崩さずに、ホタルを復活させる方法について
- ・幼虫のホタルが川辺から土に上げられる環境をどうつくるか
- ・街路灯の影響（ホタルの生態）
- ・生物学的なきれいな水（生物多様性）
⇨一般的に人間が感じるきれいな水（川）

イ) 第1回鑑川とホタルを考える会

9月1日(月) 19:00～20:30

於：もうもう亭

参加者：13名（地域住民、協力団体、事務局）

内容：事業の概要について（報告）

鑑川とホタルに関するフリートーク

- ・ホタルの生息状況、生態について
- ・数年前までいたホタルがなぜいなくなったのか
- ・農家の状況（減反に伴う休耕田、環境にやさしい農業使用）
- ・ゲリラ降雨に伴う鑑川の洪水状況について（自然のダム＝水田→休耕田化）
- ・鑑川の利用について（管理者：市としては排水目的の水路のため、地域住民の意向を前向きに受け入れていきたい考え）
- ・旧東和町内でホタルを活用した地域振興策を展開している他地区との交流（生態に関

- する勉強会など）
- ・今後の展開について（上流部でピオトープを展開している地点からホタルの生息を拡大していく考え方）

ウ) 水生生物調査

9月22日(月) 9:00～12:00

参加者：5名（有識者、希望者、事務局）

内容：鑑川流域の3カ所（上流、中流、下流）について水生生物による水質判定を実施。定量的な調査結果を得るため、地元有識者を中心に調査を実施。

上流：サワガニ、オニヤンマのヤゴ、エビ、ドジョウも確認され、ホタルが生息可能な比較的良好な水。

中流：コンクリートの護岸で、堆積した土や石を地域のクリーン作戦で撤去した地点。水生生物が隠れる場所はほとんどなし。

下流：石や砂、土が堆積しており、生物が隠れる環境あり。ヤゴや小さいエビも確認（少しきたない水）。

エ) 今後の課題として

水生生物がたくさんいた鑑川を元の姿に戻すため、川辺の草刈方法の改善（水辺に近い草は刈らない）や、土砂・石の堆積についてなど、地道に地域の合意形成を図っていくことで、地域住民が住みよい暮らしとは何か考えるきっかけをつくり出していきたい。

12 どうぶつ福祉の会 アニマルサポート・ノア

地域の動物愛護に関する意識向上を補助する事業

事業実施期間

2008年4月1日～2009年3月31日（月2回）

事業実施場所

千葉県印西市役所（住所：千葉県印西市大森2364-2）

ボンベルタ百貨店（住所：千葉県成田市赤坂2-1-10）

共催、後援、協力団体

なし

動員対象者人数

譲渡会の犬猫を通して、動物愛護を学ぶ犬猫の譲渡会に訪れる10～20人を対象に行っています

月2回の犬猫の譲渡会では、様々な人が会場に足を運んできました。私たちは、訪れる人たちが安心・安全に犬猫に触れられるよう、補助（サポート）を行って行きました。

～犬猫と一緒に暮らせない人～

犬猫を飼いたくて、でも、体質的に飼うことが出来ない人は多いです。その主な理由はアレルギーです。しかし、どうしても飼いたい、ということで、譲渡会に足を運んでくる人も多いです。私たちはその人たちのため、犬猫全てを清潔な状態にした上で接触を補助を行っています。それでも、アレルギーを押しても飼おう、という人は多くいます。それは、目の前にいる不幸な犬猫を1匹でも幸せにしたい、と体験から感じるからです。しかし、私たちは譲渡ではなく、その気持ちだけを持

ち帰ってもらいました。私たちが思い描いている幸福は、犬猫と里親を希望する人たち双方が幸せであることだからです。

～犬猫が好きの人～

当会から犬猫を引き取った里親が家族で定期的に譲渡会に訪れることもありました。譲渡された犬猫を連れ、私たちの活動の見学をしていきます。体質以外の様々な理由から動物を引き取ることは出来ないですが、動物のことを気かけられる人も多く訪れます。そして、以前訪れた時にいた犬猫が何頭もいることに気づき、不幸な犬猫を救うことが困難であることを学んでいきました。

～犬猫のことを全く知らない人～

犬猫を飼うことが出来る家庭は多くありません。アレルギーもそうですが、ペット不可の賃貸家屋、経済的な理由など、様々なことから、断念せざるを得なかった経験を持った人は少なくありません。会場に訪れる子供達全ては、犬猫のことを全くわかりませんので、私たちは、散歩の補助や犬猫のおやつをあげる時の補助を行って行きました。様々な犬猫に触れ、同じ性格の犬猫が1匹としないことを学んでいきます。体験の補助を行って行きます。子供たちは人懐っこい犬猫だけでなく、吠える犬や怯える猫がいることをこの場で知るこ



ととなりました。

～多くの人に接する犬猫～

多くの人に出会い、接することは、犬猫にとってもよい経験となります。初めて会場に訪れた時は、落ち着きもなく、とても怯えている犬猫も、2回目、3回目と回数を重ねると、落ち着いていきます。譲渡されていった犬猫の里親の皆さんの近況報告では、ほとんどが、“落ち着いた”、“人も犬猫も好き”、“とても良い子”といった言葉がよく見られました。

～ボランティアに参加する人～

子供たちを対象に、と考えて行ってまいりましたが、子供たちを通して大人たちが学ぶことも多々ありました。吠える犬に対して、子供たちは好奇心旺盛です。何度吠えられても、大人たちが注意しても向かっていきます。悪戯心もあるかもしれませんが、いつか吠えなくなると信じているのかもしれない。

～今後の予定～

譲渡活動を行っていると、犬猫の現状や飼い方について、意見が分かれることが多くありました。安心・安全に犬猫に触れられるよう補助を行う傍ら、様々な形で啓発して行きます。

13 家守クラブ

加賀大聖寺「第2回やもり市 やもりもんのエコなくらしかた」プロジェクト

事業実施期間

2008年10月～2009年3月

事業実施場所

やもりもや（旧中木邸）

共催、後援、協力団体

加賀市

動員対象者人数

30名～50名を予定。

■活動内容

加賀市大聖寺にある家守クラブが維持・運営する町屋やもりもや（旧中木邸）にて「食」にまつわる催しを行います。やもりもやには使われなくなり、破損したかまどがあります。そのかまどを再生し、利用して加賀料理を創作します。できた食べ物を介して食事会を行い、食卓を囲んで参加者と「食」「くらし」「加賀料理」について会話を交わし、団らんします。

加賀地方では古くから育んできた独特の食文化があります。背後には白山の山々、眼前には日本海を臨む屈指の自然条件があり、その豊かな自然環境は、四季折々山海の食材をもたらしてくれています。以前、栄えた北前船の貿易がもたらす交易品や文化は、加賀地方に独特の文化を育みしました。数々の魅力的な伝統工芸が発達し、陶器、漆などの器で食が彩られました。

「かぶらずし」や「じぶ煮」など、「加賀料理」

と呼ばれる料理のメニューのほとんどは、もともとは庶民的な郷土料理、いわゆるおふくろの味です。つまり、地元でとれた食材を日常的においしく食べるために工夫されてきた郷土料理を、豪華な器に盛り付け、ご馳走として仕立てたものが「加賀料理」と言えます。

現代にも加賀地方の文化気質は継承され、「食」の分野においても様々な独自の活動をされている方が滞在しています。有機農法を使ったお米。自然食材を使ったお菓子。ロハスな食材をつかったカフェなど。

そこで加賀で採れる食材をつかい、器にきれいに盛りつけるという加賀料理の主旨を現代的に翻訳し、家守クラブの自然で丁寧な「くらし」を考えた独自の料理、もりつけで、加賀料理を表現したいと思います。また自然食をつかった食材をつくる方への参加を依頼します。もちよりで家庭料理をつくってきてもらい、話を伺い、その料理に関する技術などを参加者のみなさんと共有します。「食」を介したコミュニケーションの開かれた場を作ることにより、コンビニ、保存食など、利便性に重点がおかれがちな現代の「食」のあり方をみなさんと見つめ直し、地域交流の場を作成します。

また使われていなかった古い町屋をいろいろ

な視点で使うことにより、社会に家守クラブの「くらし」を提示します。それはある質の町家利用者を生むことでしょうか。家守クラブの丁寧な「くらし」を考えたコンセプトの提示は、文化財であるやもりもやを大切に保存していくことにもつながります。町屋を保存・維持し、出合いの場、地域交流の場として質のある「くらし」の拠点をやもりもやで形成したいと思えます。

■現状報告

- ・加賀料理を調査し、どのようなものがかまどで作れるか調査中です。
- ・かまどを再生する工事費を調査中です。
- ・加賀地方近辺に滞在する自然食材を使った作家を探索中です。
- ・イベント内容を検討中です。



14 コミュニティスペースPECO運営委員会

大学生による地域の活性化 地域の居場所事業 コミュニティスペースPECO

事業実施期間

2008年4月1日～2009年3月31日

事業実施場所

コミュニティスペースPECO 近隣の公園

共催、後援、協力団体

オガタ通り商店会

カタシモワインフーズ株式会社（9月イベント）

動員対象者人数

通常開室日（教室含む）（74日間）約600名

月イベント（4回）約30名

遠足キャンプ事業（1回）13名

公園あそび事業（3回）約25名

○公園あそび出前講座事業

スタッフ数の不足により、継続的に公園に遊びに行くことが難しかったが、9月に入りようやく毎週土曜日に、PECOの近くにある公園に遊びに行くようになった。子どもたちと『次はいつ来る』と約束をして、遊ぶようになっていく。

今後の展望は、子どもたちの間に毎週土曜日は大学生が遊びをしているという意識を根付かせる、保護者や地域の方々から見て安心できるようにするために、広報(垂れ幕のようなものを掲げて、だれが何をしているかわかるようにする等)を展開していく。

○遠足・キャンプ事業

9月に食育企画の一環として、地域の名産品のブドウ・ワインを知る目的で、PECO近くのワイナリーさんを訪問した。小学生、中学生、保護者、地域の方を引き連れ、ぶどう畑やワ

イン製造工程を見学させていただいた。また、敬老の日が近かったこともあり、オリジナルラベルワインの作成を行い、参加者のみなさんに喜んでいただいた。

今後の展望は、11月2月に遠足、3月にキャンプを行う予定である。実施に向けて、保護者の理解を得るための説明会やスタッフのスキルアップがまだまだ欠かせない状態であるので、状況を把握しながら計画的に進めていく。

○月一回のイベント

駄菓子作り、母の日に紙でカーネーション作り、父の日にオリジナル染めハンカチ作りなどを行った。今後のイベント予定は、ハロウィンイベントと商店街のホームページと連動させ、仮装大会をしたり、店で合言葉を言えばお菓子が貰えるイベントを開催する。約20店舗が先着50名様にプレゼントを用意してくれる予定である。そのほかにもクリスマスや大学生の特技をいかしたイベントを行っている予定である。

○○○教室(毎週水曜日開催)

工作教室や夏祭りや駄菓子を開くための教室を行った。工作教室では、牛乳パックで椅子を作ったり、木を用いてPECOポストを作ったりした。駄菓子を開くための教室では、流通の仕組みや利益について学んだり、実際に問屋さんまで仕入れに行き、お祭りにて販売を行った。結果は赤字であったが、子どもた

ちはお金を儲ける苦労や達成感を感じていた。今後の教室は、小学生に勉強を教える時間を遊びの時間とは別にとったり、料理教室などを行う予定である。

○商店街のお祭りと地域のお祭りに出店

商店街の夏祭りサマーフェスタに模擬店・工作コーナー・遊びコーナー・子どもたちによる駄菓子屋を出店した。500名程度の来客があった。また、8月より柏原駅にて毎月開催しているとくとく市にも模擬店を出店させていたでいる。

今後は、毎月のとくとく市と、10月の商工会祭り、商店街のもちつき大会に出店する予定である。

○まとめ

この半期でPECOに来る小学生の層がより多彩になった。年上の子が年下の子の面倒を見るようになるなど、子どもたちの間でのうれしい成長が見られるようになってきた。これからは、こけに中学生や高校生、地域の大人が入っていきけるように事業を展開したいと考えている。また、保護者の方や地域の方からの認知度や信用が向上してきている。そのため、激励の言葉をや差し入れをいただいたり、物品などの寄付も頂けることが多くなった。PECOで実施してほしいことなどの要望をたくさんいただいているので、地域の期待に応えられるようにしていきたい。



まちづくり市民財団ではNHKと協力して全国のまちづくり活動に携わっている方々を紹介しています。

当財団が助成金を交付した団体・事業についてNHK第一ラジオで月曜日から金曜日まで放送されている「ふるさとラジオ」で紹介されました。今後ともできるだけ多くの方々にまちづくりの情報を発信していきたいと思っています。

いままでに放送された事業

5月21日放送 平成19年度助成

今立 古民家・匠・ロングステイプロジェクト実行委員会
「地域のぶらっとほーむ『遊作の里づくり』」

6月17日放送 平成19年度助成

駄菓子屋「くにちゃん」「子どもの居場所・多世代との交流」

6月11日放送 平成15年度助成

活き粋あさむし「浅めしレシピ&浅めし食堂」

8月26日放送 平成20年度助成

まちの家 赤坂宿「週末健康カフェ」

9月17日放送 平成20年度助成

グリーンスポーツ奈良 公園・広場に芝生（ティフトン）を皆で植えて、おもいっきり遊び運動する場をつくろう

11月11日放送 平成20年度助成

紫波中央駅前コミュニティー・プラザの会
「なんでも屋・おせっかい」を拠点にした「ご近所づきあい」の復活

平成17～19年度助成金事業一覧

| 平成19年度「まちづくり人」応援助成金交付先一覧表 | | 合計助成金額 | 5,664,960円 | |
|--|---|---------|------------|-------------|
| 団体名 | 事業名称 | 助成金額 | 都道府県 | 対象項目 |
| 1 天川☆星座遺産プロジェクト2007実行委員 | 天川☆星座遺産プロジェクト 2007 一星々に紡ぐ記憶の遺産一 | 380,000 | 東京都 | 1.2.3 |
| 2 特定非営利活動法人 北海道ツーリズム協会 | 異業種交流による「暮らし感動プロジェクト・田舎暮らしのススメ」 | 300,000 | 北海道 | 1 |
| 3 今立 古民家・匠・ロングステイプロジェクト実行委員会 (いまだて遊作塾) | 地域のぶらっとほーむ『遊作の里づくり』 | 500,000 | 福井県 | 1 |
| 4 特定非営利活動法人 サン・はぎわら | “あったか広場” 運営事業 | 400,000 | 岐阜県 | 1.2.3.4.5.6 |
| 5 福岡の朝・魅力向上計画実行委員会 | 「福岡の朝・魅力向上計画」朝カフェ3 | 300,000 | 福岡県 | 1.2.3.4.5.6 |
| 6 津七たまつり実行委員会 | 津七たまつり実行委員会 始動プロジェクト | 150,000 | 三重県 | 2 |
| 7 八幡酒蔵工房 | 社会循環型『八幡酒蔵工房』開設 | 500,000 | 滋賀県 | 1.2.3.4 |
| 8 愛媛県神道青年会 | 愛媛の伝統文化 IN 道後 | 300,000 | 愛媛県 | 2.3 |
| 9 駄菓子屋「くにちゃん」 | 子どもの居場所・多世代との交流 | 300,000 | 東京都 | 5 |
| 10 環境プロジェクト三保三隅百姓会 | 「土藁屋」創りでまちづくり事業 | 500,000 | 島根県 | 1.2.3.4.5.6 |
| 11 特定非営利活動法人 町田楽友協会 | バリアフリー オーケストラのためのセラピー パーカッション等の購入 | 300,000 | 東京都 | 3 |
| 12 U nited Children | Sunshine Festival 2007 サンシャイン フェスティバル 2007 | 300,000 | 静岡県 | 2.3.6 |
| 13 ピープルズシアター・リコロコ | みちばたからまちづくりプロジェクト「みちばた劇まつり」 | 500,000 | 埼玉県 | 1.2.6 |
| 14 特定非営利活動法人 俳句甲子園実行委員会 | 第10回 俳句甲子園 全国高等学校俳句選手権大会 | 150,000 | 愛媛県 | 2.3 |
| 15 鶴沼の緑と景観を守る会 | 鶴沼（藤沢市）の緑と景観を守り、歴史的建造物などの文化財を大切にしたい住民参加のまちづくり | 300,000 | 神奈川県 | 1.3.4 |
| 16 社団法人 天童青年会議所 | 第28回全国中学生選抜将棋選手権大会 第9回女子の部 | 100,000 | 山形県 | 1.6 |
| 17 社団法人 山梨青年会議所 | 文化財・大井保八幡神社を使った山梨市のまちづくり | 100,000 | 山梨県 | 1 |
| 18 社団法人 豊田青年会議所 | エコキッズ事業 | 100,000 | 愛知県 | 3.6 |
| 19 (社) 静岡青年会議所 | 「しずおか未来学園」親子の絆・次代創造～過去・現在そして未来へ～ | 100,000 | 静岡県 | 5 |
| 20 社団法人 高知青年会議所 | RUN FOR ALL 2 「ノーマライゼーション社会へ」 | 100,000 | 高知県 | 1.2.3.4.5.6 |
| 21 サザンビーチフェスタ実行委員会 | 茅ヶ崎市制60周年記念事業 サザンビーチフェスタ'07 | 100,000 | 神奈川県 | 1 |
| 22 社団法人 西条青年会議所 | 2007 夏休みチャレンジわんぱく西条プロジェクト「夏プロ」 | 100,000 | 愛媛県 | 1.2.3.4.5.6 |
| 23 ウォークリーチーム | ウォークリー | 100,000 | 愛媛県 | 1 |
| 24 社団法人 岩国青年会議所 | 岩国市民参加型総合音楽祭【音楽の祭典 WAIWAIWA!】 | 200,000 | 山口県 | 1.3.6 |
| 25 社団法人 久慈青年会議所 | いわて久慈のたからものえほん製作事業（第1期） | 200,000 | 岩手県 | 2.5.6 |
| 26 社団法人 寒河江青年会議所 | 40周年記念事業 2007年度夏休み少年少女 心のあかり～六十里越街道、出羽三山を通じて～ | 200,000 | 山形県 | 5 |

平成18年度「まちづくり人」応援助成金交付先一覧表

合計助成金額 5,700,000円

| 団体名 | 事業名称 | 助成金額 | 都道府県 | 対象項目 |
|---------------------------|----------------------------------|---------|------|-------------|
| 1 東鳴子ゆめ会議 | GOTEN GOTEN 2006 アート湯治祭 | 500,000 | 宮城県 | 2 |
| 2 特定非営利活動法人 サン・はぎわら | まちかどサロン開設・運営事業 | 500,000 | 岐阜県 | 2.3 |
| 3 「心の子育てネット にしよどがわ」 | 子育てしやすい街づくり事業 | 500,000 | 大阪府 | 5 |
| 4 高知県東海岸町並みネットワーク会議 | 土佐の町家雛まつり イベントおよび講習会の開催 | 500,000 | 高知県 | 1.2.3.4 |
| 5 「かぐや姫」なごみの里竹原 | なごみの里竹原原景観整備 | 500,000 | 栃木県 | 1 |
| 6 特定非営利活動法人藤枝・お茶事の村 | 藤枝“お茶の香ロード” 演出イベントと“まちづくり研究会”の運営 | 400,000 | 静岡県 | 2.3.4 |
| 7 特定非営利活動法人 キッズアイランド淡路島 | 冒険の島「淡路島」～キッズ宝島プロジェクト～ | 500,000 | 兵庫県 | 5 |
| 8 新世界アーツパーク未来計画実行委員会 | ビッグ盆！ | 500,000 | 大阪府 | 1.2.3.4.5.6 |
| 9 小田原まちづくり応援団 | 小田原デザインストリート 2006 水と緑の歳時記 | 500,000 | 神奈川県 | 1.2.3.4.5.6 |
| 10 イカスイかるみん | 一来田家洋館の登録文化財記念展覧会～ | 300,000 | 東京都 | 1 |
| 11 特定非営利活動法人ブリッジ | 都市と農村の交流によるまちづくり事業「田舎い～なか隊！」 | 500,000 | 熊本県 | 3.4.5.6 |
| 12 狛江青年会議所 | 狛江・落書き一斉消去・プロジェクト・2006 | 200,000 | 東京都 | 2.3 |
| 13 社団法人 鹿児島青年会議所 | かごしまキャンドルナイト 2006 | 100,000 | 鹿児島県 | 1 |
| 14 社団法人 東京青年会議所 第4地区特別委員会 | 第2回 THINK SETAGAYA ～せたがやまちづくり～ | 200,000 | 東京都 | 1.3.6 |

平成18年度災害復興支援事業一覧表

合計助成金額 900,000円

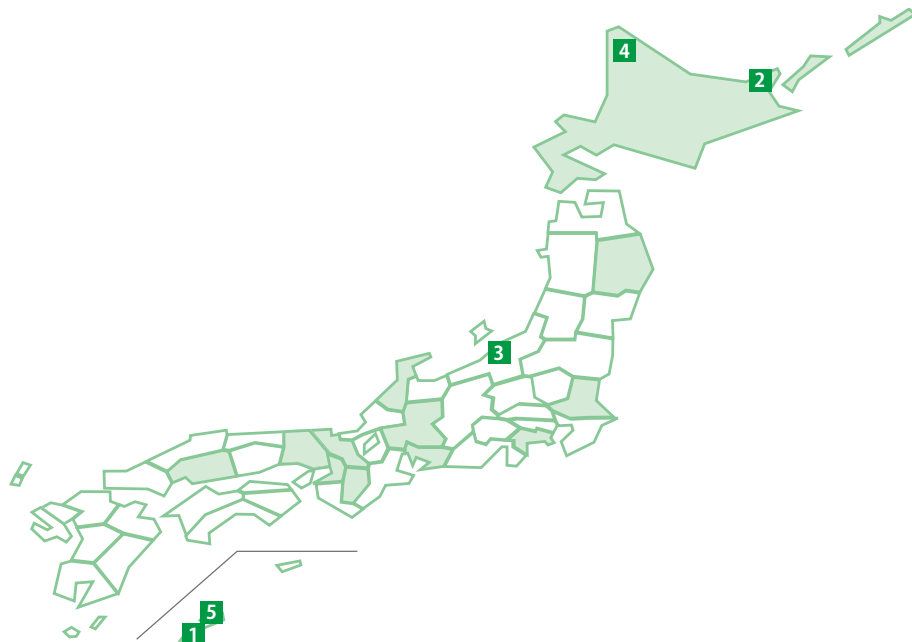
| 団体名 | 事業名称 | 助成金額 | 都道府県 | 対象項目 |
|--------------------------|------------------------------|---------|------|------|
| 1 災害応援にゃんこ隊 | 復興へ山古志の子ども達からの発信 まちの元気プロジェクト | 200,000 | 新潟県 | - |
| 2 公的援助法実現ネットワーク被災者支援センター | 高齢者・障害者生活サポート活動 | 500,000 | 兵庫県 | - |
| 3 社団法人 雪国青年会議所 | 目指せ地域の復興と自立！ 「しゃくなげ湖畔」地域再生事業 | 200,000 | 新潟県 | - |

平成17年度「まちづくり人」応援助成金交付先一覧表

合計助成金額 5,600,000円

| 団体名 | 事業名称 | 助成金額 | 都道府県 | 対象項目 |
|-----------------------------------|--|---------|------|-------------|
| 1 南大東 島まるごと館 | 南大東島の自然と文化を守って、活用する。 | 300,000 | 沖縄県 | 6 |
| 2 特定非営利活動法人 たきどうん | 竹富島のむかし話を絵本にしよう | 400,000 | 沖縄県 | 3 |
| 3 特定非営利活動法人 和歌山芸術文化支援協会 | ぶらくりミュージアム～エイブルアート∞～ | 500,000 | 和歌山県 | 1 |
| 4 古賀市緑のまちづくりの会 | 「古賀市 10万本ふるさとの森づくり」 (平成15年度アウトドアクラスルーム認定事業) | 100,000 | 福岡県 | 1.5.6 |
| 5 京葉都市塾 下町けんちく倶楽部 | 「問屋街けんちく」の再生デザインワークショップ | 300,000 | 東京都 | 2 |
| 6 特定非営利活動法人 子育て・高齢者介護サポートばっけの会 | 地域参加型子育て・高齢者支援としてのひよっこサロン開設事業 | 500,000 | 秋田県 | 1.2.4.5 |
| 7 特定非営利活動法人 さっぽろ自由学校「遊」 | 市民活動(NGO・NPO)の実践をまちづくりに活かす ～連続フォーラムの開催と調査・提言活動～ | 500,000 | 北海道 | 1 |
| 8 特定非営利活動法人 クリエイティブサポートレッツ | 障害のある人の表現活動による文化的ムーブメント 企画提案書の作成 | 500,000 | 静岡県 | 1 |
| 9 まちづくりフォーラム港南 | ころ BOX (港南地域情報交流事業 ～市民自身の取材・発信による地域情報交流～ | 500,000 | 神奈川県 | 1 |
| 10 特定非営利活動法人 GOZAN 自然学校 | レイトワークはインストラクターでも村もみんな元気 (リタイア後の生き甲斐と村の活性) | 500,000 | 長野県 | 1.3.4.5 |
| 11 特定非営利活動法人 パブリックリソースセンター | オンライン寄付サイト GambaNPO.net による コミュニティファンド応援事業 | 500,000 | 東京都 | 1 |
| 12 社団法人 静岡青年会議所 | 心のふれあい事業「JC Kids ミュージカル 2005」 | 200,000 | 静岡県 | 3 |
| 13 社団法人 諏訪圏青年会議所 | 大切な心を育むための環境を創りだす事業 | 200,000 | 長野県 | 5 |
| 14 社団法人 鹿児島青年会議所 | 「60万人のキャンドルナイト 2005 夏至」 | 200,000 | 鹿児島県 | 1 |
| 15 社団法人 摂津青年会議所 | 淀川親水公園計画 (淀川パークフェスタ 2005 仮) | 200,000 | 大阪府 | 1.2.3.4.5.6 |
| 16 社団法人 法皇青年会議所 | プレイバス事業 | 200,000 | 愛媛県 | 1.2.3.4.5 |

共同研究事業交付地



平成20年度 共同研究事業交付先一覧表

| 団体名 | 事業名称 | 都道府県 |
|-----------------|-------------------------|------|
| 1 社団法人 宜野湾青年会議所 | 親子ふれあい体験塾 | 沖縄県 |
| 2 社団法人 斜里青年会議所 | 社団法人 斜里青年会議所 知床見聞録 | 北海道 |
| 3 社団法人 長岡青年会議所 | まちづくり事業「みんなの遊び場 シティホール」 | 新潟県 |
| 4 社団法人 名寄青年会議所 | 観光改革！NICE（ナイス） | 北海道 |
| 5 社団法人 名護青年会議所 | 名護市「ガジュマル広場」 | 沖縄県 |

平成20年度 共同研究事業紹介（中間報告）

1 社団法人
宜野湾青年会議所

親子ふれあい体験塾

事業実施期間

2008年8月～2009年3月

事業実施場所

宜野湾市・中城村・北中城村

共催、後援、協力団体

宜野湾市・中城村・北中城村 各教育委員会

動員対象者人数

各回100人程度

第一回目を8月3日（日）に実施。

宜野湾市中央公民館にて27名を対象に、親子での工作及び「学の夏休み」上映を行った。

事業目的としては

- ①倫理教育プログラムを活用し、日本の良き文化・精神を伝え健全な青少年育成を図る。
- ②もの作りを通して楽しく親子のふれあいをし、親子の絆を深める
- ③協働事業をする事によって各種団体との交流・情報交換を行い、今後の活動に繋げていく。

親子で一緒になって作品をつくり、完成したおもちゃで遊ぶことにより親子のふれあう時間をつくることができた。また、「学の夏休み」を使い人への思いやりや、物を大切に作る気持ちを伝えることができたといえる。



2 社団法人 斜里青年会議所

社団法人 斜里青年会議所 知床見聞録

事業実施期間

2008年8月2日～4日

事業実施場所

斜里町 知床世界自然遺産

共催、後援、協力団体

特になし

動員対象者人数

対象者： 子ども熊本： 23名
子ども北海道： 8名
大人： 31名
合計 62名

環境破壊が進む今、豊かな自然を次代に残す為には、大人である我々から次世代を担う子供たちへより良い環境を継承することが責務であると考えます。自然環境保全の先進的な取り組みを行なう地域を目指し『見て、考えて、行動し、地域力を高めていく』をテーマに、北海道、本州の子供たちを受け入れ、北海道の立地条件、環境を用い、知床世界自然遺産にて環境問題について学ぶ体験学習を行いました。それにより次世代を担う子供たちが自然環境に直接触れ学ぶ事で、今後自主的に世界の自然環境を考え、その保全の為に行動にすることのできる青少年の育成を目指し、本事業を実施いたしました。

子ども達が地球環境の尊さを知り、未来に

誇る貴重な人財となり環境の保全に積極的に取り組んで頂けると考えます。

◇ 知床世界遺産トレッキング学習

知床世界自然遺産に触れ環境問題の生の現場に関わり、自然を理解し、自然を守る大切さを伝えました。知床財団によるレクチャーを利用し知床世界自然遺産の生態系や環境について学んでもらいました。

◇ 『OMOIYARIエコナイト』

参加した子どもたちが、北海道の大自然の中、地球環境の未来について互いに考えるきっかけをつくることで、人と自然が共に尊重し慈しむ心の育成を行いました。

◇ 「OMOIYARI」の心を醸成し、心の絆を育む機会として実施した。

子どもたちに廃油で作るエコキャンドルを作成してもらい、そのエコキャンドルを囲みながら地球の未来のために、自分たちが何ができるのか話し合っ

いた。最後に、子ども達共同で「OMOIYARIエコ宣言」を考えてもらい発表してもらいました。

本プログラム全体を通じ、子ども達の心の中に環境問題は一人一人が取り組まなくては行けない問題として育むことができたと考えます。



3 社団法人 長岡青年会議所

まちづくり事業「みんなの遊び場 シティホール」

事業実施期間

2008年5月5日(祝) 11:00～16:00

事業実施場所

長岡市厚生会館(シティホール建設予定地)

共催、後援、協力団体

森民夫長岡市長、長岡市役所(秘書課、まちなか整備課、厚生会館地区整備推進室、公園緑地課、スポーツ振興課、国体推進室、観光課、広報課)、厚生会館前活性化実行委員会、ながおかの陣実行委員会、長岡市大手通商店街振興組合、(株)エヌ・シー・ティ、FMながおかの、長岡市花まつり奉賛会

動員対象者人数

参加者70名 サポーター 56名

(1)シティホールの活用を想定したイベントの実施

①みんなの音楽会(協力: (株)エヌ・シー・ティ、FMながおか)

【大ホールにて実施】

・園児から年配の方まで老若男女に亘り7団体の方からそれぞれ和太鼓やジャズ、ポップスなど様々なジャンルの演奏をしていただきました。

・それに伴い、幅広い年齢の方から来場・観覧いただきました。

・最後に演奏した出演者によるセッションでは、会場内が一つになるような温かみのあるエンディングとなりました。

・市民が日頃練習している事柄を発表する場、また気軽に音楽等を楽しめる場を設営し、出

演者・観覧者の双方に喜んでいただけました。
②ながおかの陣(協力: ながおかの陣実行委員会)

【前広場飲食スペース、大ホール飲食スペースにて実施】

・安心・安全な食品、地産地消を推進するながおかの陣実行委員会様のご協力により、13店舗出店していただきました。

・安全で新鮮な地元食材を使用し、当日限定のメニューを提供していただき、お客様からも喜ばれました。

・上記コンセプトと多数の来場者により、ほとんどの店舗が完売するほど大盛況でした。

・飲食をしながら音楽等を楽しめるスペースも好評でした。

③情報ブース(協力: 長岡市観光課)

【大ホールにて展示】

・長岡の観光や人口・農産物等のアラカルト情報を映像とパネルを使用し、長岡に興味を持ってもらうスペースを提供しました。

・平成の大合併から2年が経過しましたが、各地域の特色・情報が新鮮に映っていたようです。

(2)シティホールPR(協力: 森民夫長岡市長、長岡市まちなか整備課)

・基本コンセプト、設計コンセプト、設計者の紹介等をパネルにより掲示しました。また、地元大学生により製作された模型を展示しました。



・江戸時代よりまちなかに賑わいのあった様子や現在の市民活動の様様をスクリーンで紹介しました。

・その後、森民夫長岡市長と五井正彦まちづくり委員会委員長が対談し、シティホールが市民と行政の協働により賑わいのある素晴らしいまちとなるよう抱負を語りました。

(3)市民の誘客の一環としてクイズラリーを実施

・シティホールや来年開催される新潟国体に関する問題と解説を各チェックポイントに設けました。

・参加者には楽しみながら会場内外を回遊し、上記の啓蒙が図れたと思います。

(4)アンケート調査による市民の声を収集

・3年後に完成するシティホールを想定して実施した事業を通して、アンケート調査をしました。

・当日実施した事業内容や利便性の他に、どんなことを望まれているか等、市民の声を収集しました。(553件)

・シティホールについては、市広報誌(市制だより)等により市民へ発信されておりましたが、市民への浸透度は高いとは言えない状況でした。今事業で形を提示した上で収集したアンケートには市民の前向きな期待や希望が多数寄せられました。

・今後精査した上で、行政をはじめ外部へ発信していきます。

4 社団法人
名寄青年会議所

観光改革！ NICE (ナイス)



事業実施期間

7月25日から情報公開
7月26日オープンイベント実施 ～
2009年1月NPOなよろ観光まちづくり協会へ引継ぎ
(予定)

事業実施場所

3. 事業実施場所
7月26日オープンイベントは北海道道立公園サンピ
ラーパークで開催
それ以降は随時、NPOなよろ観光まちづくり協会
ホームページ上で掲示
(その他、名寄市内の各イベントでPR活動)
<http://www.nayoro-kankou.com/nice/>

共催、後援、協力団体

NPOなよろ観光まちづくり協会

動員対象者人数

なよろ観光案内所「NayoroInformationCenter
(NICE)」を多くの利用者が現在も増え続けている
インターネット上に、地域に根ざした地元ならで
はの観光情報を中心とした情報サイトとしてオー
プン。

移動途中を含めた観光客や、仕事で初めて名寄
を訪れる人々が、地域の素晴らしさを知っていた
だききっかけとする。また、名寄市在住の方々に
も今まで気が付かなかった地域の良さを改めて発
見していただけるような、観光のPRや情報が一
手に集まる場所として認識していただく。そして、
ゆくゆくは、観光事業の発展に寄与することを目
的に活動展開を行う。

(7月～9月末時点、WEBカウンター総数2811)

4月～7月：事業概要決定、NPOなよろ観光ま
ちづくり協会と打ち合わせ。

・地域政策推進カウンターパートナー構築事
業～北海道地域共創ビジョン2008～に出席。
北海道総合計画及び地域連携政策展開方針(骨
子案)の中の多様な魅力あふれる観光地づく
りや地域間を結ぶ情報ネットワークに準じ活
動

・観光調査(各団体、個人で行っているツアー
イベント、ガイドの情報収集～随時継続)
・WEB製作企画(情報発信の分類、情報提供
のフォーマット作製、プライバシーポリシー、
責任の所在等法的な検討)

・ポスター、看板製作(市内店舗等への配布掲
示、オープンイベント、WEBアドレス等の告知)
・オープンイベントの企画立案(道立公園サン
ピラーパークでのガーデンパークのオープ
ニングイベントに連動した企画立案PR活動。)

7月26日～現在：PR活動と各種ツアーの実施

・オープンイベントの実施(7/26イベント内の
陶芸教室、望遠鏡製作教室、天体観望会の子
供体験型イベントの参加募集を実施し、情報
の掲示などでPR活動を開始)：参加延べ人数は
約1,000人

・市内各種イベントでのPR活動

(7/6ふれあい広場：約2,000人、7/12韓国フェ

ア：約550人、8/3てっし祭り：約14,500人、
8/31産業祭り：約5,000人、9/27チームジャン
プ2008：約1,300人…等のイベントにてNICE利
用促進PR活動を展開)

・8/11釣りきちツアー(最初の市外からのNICE
経由のツアー参加、利用の申し込み。別添写真)
・WEB以外のPRとしてNICE利用促進パンフ
作成(市内の施設やホテル等への常設予定)
・コミュニティFMにてCM放送予定(11、12
月予定)

・なよろ観光まちづくり協会への引継ぎ準備
(管理運営の移行の確認、PRを含めた運用手
続きをツアーイベントを介して11月実施の為、
調整中)



5 社団法人
名護青年会議所

六諭衍義琉球渡来 300 年記念事業

事業実施期間

2008年6月2日

事業実施場所

名護市「ガジュマル広場」

共催、後援、協力団体

名護市・(財)名護市観光協会・名護市商工会 青年
部

動員対象者人数

合計300名

- ①名護市内小学生50名(程順則というキーワード
の入った校歌：5校)
- ②名護市内保育園生30名(六諭いろは歌太鼓)
- ③来賓20名
- ④名護市民200名

約300年ほど前の名護の総地頭、今で言う名
護市長である程順則の残した教えを今に甦ら
すための年として絶好の機会ととらえ琉球渡
来300年記念事業を開催することにより教育の
まち、名護市を発信する。

準備段階として名護市民へ程順則の存在と
教えを浸透させるためのツールとして、商工
会青年部と協働チームを作り、そのテーブル
の中で名護で生産されているオリオンビール
にてオリジナルラベル仕様の六諭ビールの開
発・販売、そして六諭まんじゅう、六諭鉛筆、
六諭ハンカチの流通をとって地元企業とのコ
ラボにより名護市いたる所に六諭にふれあ
う機会を創りだし、市民意識の向上に結びつけ

る。

式典に於いては、名護市少年少女合唱団の
協力をえて程順則や六諭の教えを取り入れた
小学校・中学校の校歌を歌って、その学校を
卒業した方や在学学生に今まで深く考えるこ
の無かったフレーズに誇りに感じるひととき
を導入部分で行い、続いて程順則像がある名
護市博物館のすぐそばにある名護杉の子育
園では六諭いろは歌に振りを感じ名護市内イ
ベントや運動会、お遊戯会と常に教えを大事
にしている園児の演技を式典にて名護市民に
披露することにより多く市民への関心を集
めるアトラクションを行う。

その後程順則の教えとその時代背景を研
究し、名護市内外問わず六諭のこころ普及に
心血を注いでいます、安田和男氏を講師に招
き程順則の生い立ち、父や母からの教えや、
中国での暮らし六諭との出会いを得てなぜ
この琉球へ持ち帰ったかという動機、そして
琉球から薩摩藩をとおして、第八代将軍、吉
宗へ献上され、全国の寺子屋の基礎となっ
てにふれていただき、私たち名護市民が
なぜこの教えを大事にしなければならないの
か、誇りにできるものという自覚に気づき
を与えてくれる講演を行っていただく。

その後名護青年会議所が提案する六諭衍

義・六諭の教えをより多くの市民へそして継
続的に広げるためのツールとして六諭グッズ
の作成・販売する企業のテーブルづくりを行
い、多くのアイデアを持ち寄り様々な企業
の得意とする分野より作り出されたグッズが
名護市民の誇りとなし一人一人が六諭の教え
を理解し実践することにより教えに刻み込ま
れた道徳観念を持ち実践する市民が増えるこ
とにより心明るい豊かな名護市を目指す、そ
してより継続的なものとするために経済効果
も交えながら企業倫理の醸成を行いかつ、売
上金の一部を程順則を始めとする名護偉人と
呼ばれた方々の歴史資料館を作成するための
基金を作るためのプレゼンを行う。

活動内容及び現況報告

4月より一週間に一度程度、商工会青年部・
観光協会・名護市商工観光課との合同会議を
開催し六諭ビールの開発について協議を行っ
た。

6月2日に事業実施を行った。

現在、精算業務を終了し事業報告並びに決
算報告の作成中であります。



研究交流事業報告 「システム思考セミナー」報告

平成 20 年度のまちづくり市民財団の研究交流事業であるシステム思考を取り入れた「まちづくり事業」について水戸青年会議所が「システム思考セミナー」を 2 回開催いたしました。

第 1 回

日時：2008 年 2 月 6 日 19:30～21:00

場所：茨城県産業会館 研修室

参加者：(社)水戸青年会議所会員 57 名
 各地青年会議所会員 21 名
 各まちづくり協力団体 9 名
 総出席者 87 名

第一部：システム思考セミナー「まちづくりについて」

講師：財団法人まちづくり市民財団 理事長 米谷 啓和氏

第二部：システム思考セミナー「まちづくりを考える」

講師：(有)チェンジ・エージェント 代表取締役 小田理一郎氏

第 2 回

日時：2008 年 3 月 15 日 13:30～17:00

場所：茨城県民文化センター分館 9 号室

参加者：(社)水戸青年会議所会員 28 名
 各地青年会議所会員 6 名
 各まちづくり協力団体 3 名
 総出席者 37 名

講演：第 2 回システム思考セミナー「まちづくりを考える」

講師：(有)チェンジ・エージェント 代表取締役 小田理一郎氏

[実施報告]

私たち(社)水戸青年会議所は、青年経済人として活動を行っている中で、様々な課題にぶつかることがあります。地域社会の発展と水戸未来ビジョンを実現するために、それらを打開する解決策の一つとして、本年度は財団法人まちづくり市民財団のご協力によりシステム思考を学ばせていただきました。

今回のセミナーにより、私たちが目指すまちの未来像を実現する為には、様々な要因が連鎖的に関り、まちづくりには単に目の前の問題を解決する為の手法を用いるのではなく、有機的に繋がる様々な問題点を見つけだし、それを解決していく為の手法を考えていくことが大切だということ学びました。

私たちは、本年度においても「夜梅祭」「ちびっこ広場」「平成弘道館」等の様々なまちづくり・ひとづくりをする為の事業を展開して参りました。それぞれの事業を、今後も連携させながら発展させるためにも、システム思考に習うループ図等を用い、一つひとつの事業をきちんと検証し、多方面からの視点・アプローチからまちづくりを展開したいと考えます。

また、まちづくりのみならず、青年会議所が抱える会員の減少問題解決、青年経済人として各企業の発展等、様々な問題解決にシステム思考を活用して参りたいと考えております。



平成 20 年度まちづくりファシリテーター事業報告

ファシリテーター事業では、以下の 2 つの事業を行なっています。「体験版ワークショップ」では、まちづくりの手法の一つであるワークショップの有効性、必要性を全国に発進していく事によりまちづくり手法の一つ（ワークショップ）を全国へ広め、紹介を通して行く事業です。

本年度「体験版ワークショップ」事業

9 月 11 日の「体験版ワークショップ」でかつらぎ J C スタッフがファシリテーター出来る様に事前（8 月 22 日）にレクチャーを行い、11 日当日、スタッフはアドバイザーに徹しました。

| 期日 | 主催者 | 参加者 | 参加スタッフ | オブザーバー |
|----------|---|------|--------------------|----------|
| 8 月 22 日 | 奈良ブロック かつらぎ青年会議所 「体験版ワークショップ」 スタッフセミナー | 10 名 | 川端、中尾、廣田、 北村、勝木 | 中尾（大学院生） |
| 9 月 11 日 | 奈良ブロック かつらぎ青年会議所 「体験版ワークショップ」 青年会議所メンバーセミナー | 50 名 | 山本、北村、川端、 中尾、廣田 | 中尾（大学院生） |

日本全国の元気な 「まちづくり人」を応援します！

まちづくり市民財団は、「市民がまちづくりを行いやすい環境づくり」と、「それに取り組む人たちの応援」をする財団です。私たちは「まちづくり人」を応援します。まちづくりに情熱を燃やし、それぞれの地域で想いを形にしていこうという人たちを応援します。

「応援してほしいことは何か？」

「応えられることは何か？」

そのことを考えながら助成事業を展開してまいります。これまでの「事業に対する助成」という考え方から、「人や組織や運営に対する助成」、「複数年の助成や資金以外の応援」などをとおして、「日本に新しいまちづくりの風」をおこします。多くのご応募をお待ちしています。

(財) まちづくり市民財団
理事長 米谷 啓和

平成21年度 「まちづくり人」 応援助成金応募の ご案内

私たちは、助成終了後も選出された皆様と、
ネットワークをつくり、
当財団のさまざまなプログラムを通して
連携し続けることで、
「新しいまちづくりの風」をおこし続けて
行きたいと考えています。

応募内容

1. 助成金
本年の助成金の総額は500万円です。
一件50万円限度とし、内容等選考の上、10件程度選出します。
※複数年連続で助成する場合もあります。
2. その他の応援
その他助成金以外に応援してほしい事柄の中から、応えられるものについて応援します。

応募対象

本年度のまちづくり人応援助成金は、A項目とB項目に大別しています。

A項目『地域の小さな循環をつなぐ仕組み創り』

B項目『各地域でのまちづくり活動』等の6分野の活動として募集いたします。

今年度の「まちづくり人応援助成金」の重点施策としては、社会や地域に必要とされる「地域の小さな循環をつなぐ仕組み創り」を中心とした活動等に対して応援いたします。

応募対象の記載については、A項目またはB項目の中から皆様の活動の中心となる項目を、1項目だけを選択して申請用紙にご記入下さい。

- A : 小さな循環をつなぐ仕組み創り
- B 1 : 環境活動：環境保全やエコ運動を推進する、まちづくり活動をする人を応援します。
- B 2 : 啓蒙活動：NPOや組織づくりを通じて、まちづくり活動を提唱・実践する人を応援します。
- B 3 : 交流活動：世代間交流を活発にする活動や運動等を通じて、まちづくり活動をする人を応援します。
- B 4 : 活性化活動：地域の商工業を活性化する活動を通じて、まちづくり活動をする人を応援します。
- B 5 : 文化活動：地域の歴史や文化、芸術活動の推進を通じてまちづくり活動をする人を応援します。
- B 6 : 福祉活動：地域福祉の増進を図る活動を通じてまちづくり活動をする人を応援します。

注：A項目「地域の小さな循環をつなぐ仕組み創り」については、本誌理事長挨拶（3ページ）に具体的に掲載していますのでご覧ください。

応募手続き

1. 助成金応募申請書の送付
助成金応募申請書およびその他必要書類を、当財団ホームページよりダウンロードして記入作成、それを期間内に送付してください。申請書類の他、活動概要がわかる写真や資料を添付していただいても結構です。原則としてEメールで送信されたデジタル書類のみ受け付けます。(Zip圧縮後1MB程度。あまり重くならないようにご協力お願い致します。) デジタルの対応ができない団体については、まちづくり市民財団事務局に問い合わせをして確認を受けた後に、ダウンロードした書類に必要事項を記入し送付して下さい。
2. 書類提出先および問い合わせ先
財団法人まちづくり市民財団 事務局
〒102-0093 東京都千代田区平河町2-14-3
日本青年会議所内
TEL：03-3234-2607（平日午前9時30分～午後6時）
FAX：03-3234-5770
URL <http://home.interlink.or.jp/~machizkr/>
Eメール machizkr@interlink.or.jp
3. 送付期間
平成21年3月1日～3月31日（必着）

選考選出と助成金交付

1. 選考は一次書類選考選出後、締切日の翌々月に開催する選考委員会にて二次選考選出を行います。選考委員会にて選考選出された申請団体については原則として現地調査を行い最終選考とします。最終選考選出団体へは速やかに書面にて通知、助成金を交付します。
2. 助成金は申請団体の代表者に対して交付します。そしてその代表者には活動の内容・助成金の管理・報告書の提出等に責任を持っていただきます。
3. 助成金対象活動の実施期間は、平成21年4月1日～平成22年3月31日の間に実施される活動を基本とします。

まちづくり応援人

募集

ご入会・
ご寄付のお願い

まちづくり市民財団の活動をご理解いただき、
財団運営に対してご協力のほど
お願い申し上げます。

会員の皆様へは

- 1 「会員の集い」への参加
- 2 会員の活動および情報の全国への発信PR
- 3 まちづくり情報の提供
- 4 広報誌「まちtowns!」の定期購読
- 5 希望者は財団の活動への参加

お振り込み先

三井住友銀行麹町支店
普通預金0960483
財団法人まちづくり市民財団

郵便振替口座

口座記号番号 00100-7-446515
財団法人 まちづくり市民財団
郵便振替は手数料がかかりません。

入会金

特別会員（法人） 一口 10万円（年会費なし）
賛助会員（個人） 一口 1万円（年会費なし）

お問い合わせ先

財団法人まちづくり市民財団事務局
〒102-0093 東京都千代田区平河町2-14-3
TEL 03-3234-2607
FAX 03-3234-5770

財団法人まちづくり市民財団の趣旨にご理解いただいた特別会員（法人）、賛助会員（個人）の募集、
ならびにご寄付をお受けしております。
入会金・寄付金は、地域社会への貢献に役立たせていただきます。

まちtowns! Vol. 18

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-14-3 日本青年会議所会館内
TEL : 03-3234-2607 FAX : 03-3234-5770
E-mail : machizkr@interlink.or.jp
<http://home.interlink.or.jp/~machizkr/>



財団法人 まちづくり市民財団

編集スタッフ

2008年度社団法人日本青年会議所
ローカルコミュニティー復活推進会議

議長 山下 隆子
副議長 大村 相基
ローカルコミュニティー復活推進会議
メンバー同

無断転載を禁じます